

日本学術会議主催 学術フォーラム
未来への挑戦 -日本学術会議100年に向けて-

Part 1. 持続可能な社会の実現に向けて

【関連テーマ】 少子高齢化と向き合う

日時: 2020年3月30日 (月) 10:20-10:35

場所: 日本学術会議講堂



安村誠司

日本学術会議第二部会員
福島県立医科大学 理事・副学長、教授

COI開示

発表者名： ◎安村誠司

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
COI 関係にある企業などはありません。

1. はじめに

2. 世界・日本の人口状況・推移

1) 30年後の世界人口

2) 日本の人口（年齢階級別）

3. 日本における課題

・高齢者対策について

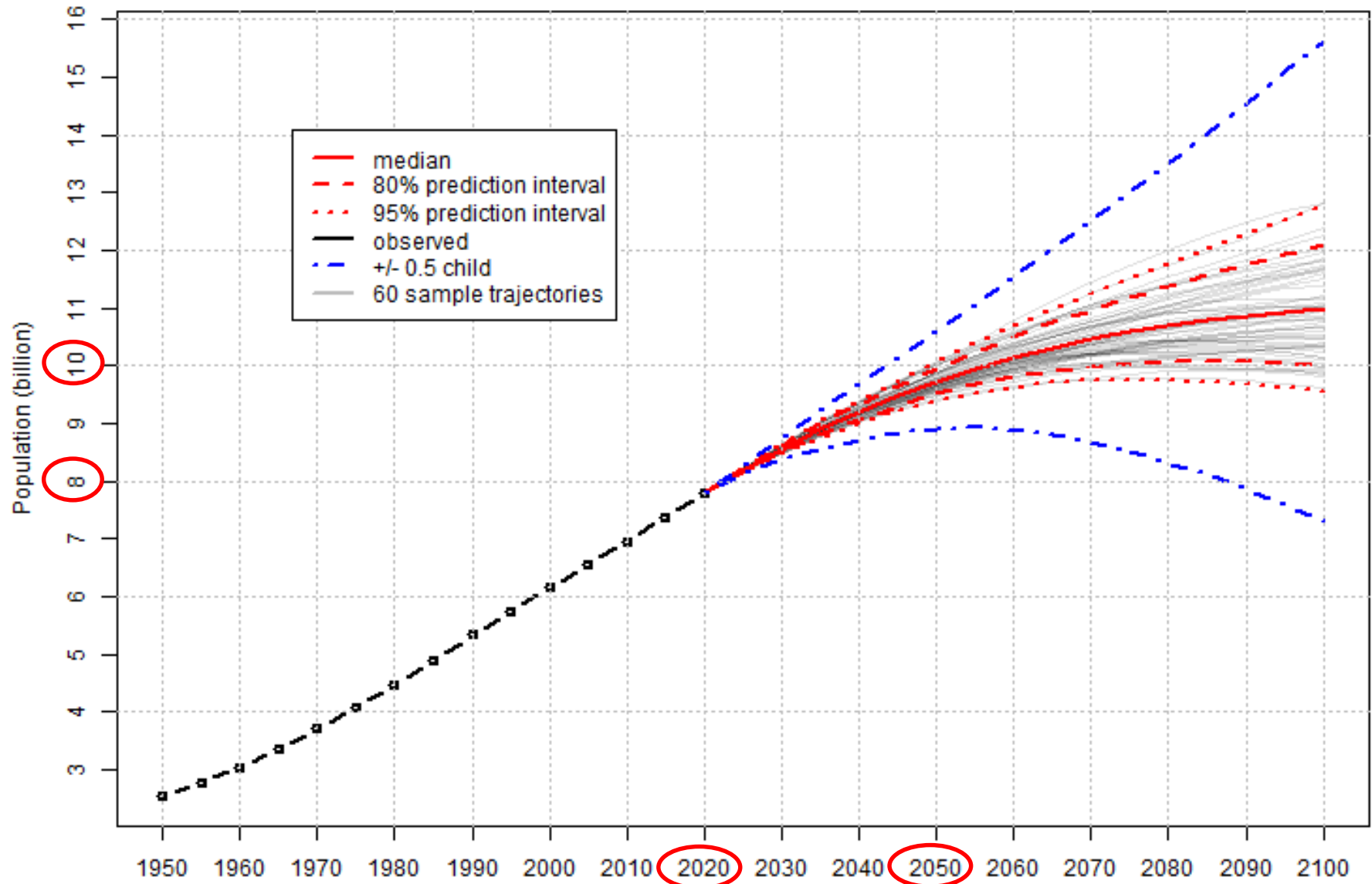
・少子化対策について

4. 日本学術会議としての対応と課題

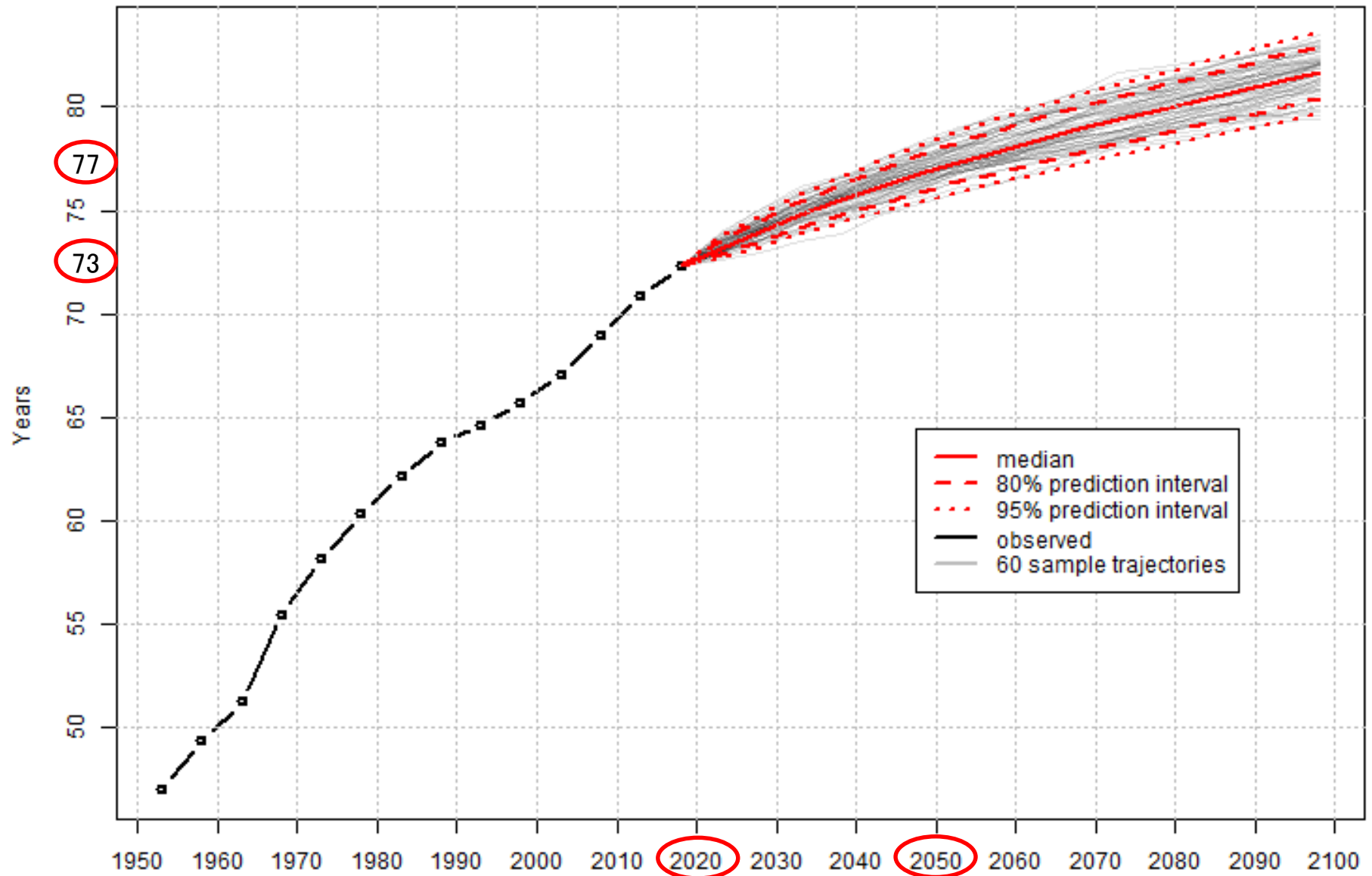
1. はじめに

- ・ 日本学術会議 100年に向けて……つまり、今後30年
- ・ 報告「日本学術会議100年を構想する」：わが国が迎える人口減少を危機ではなく好機と捉えて、多様性に富み、変化に強く、持続可能な社会を創るための方策を提案…
- ・ ポジティブな面とネガティブな面の表裏一体
- ・ 私の立場：「健康（保健）の視点」であり、それ以外（医療・福祉・教育等）は含まれない。

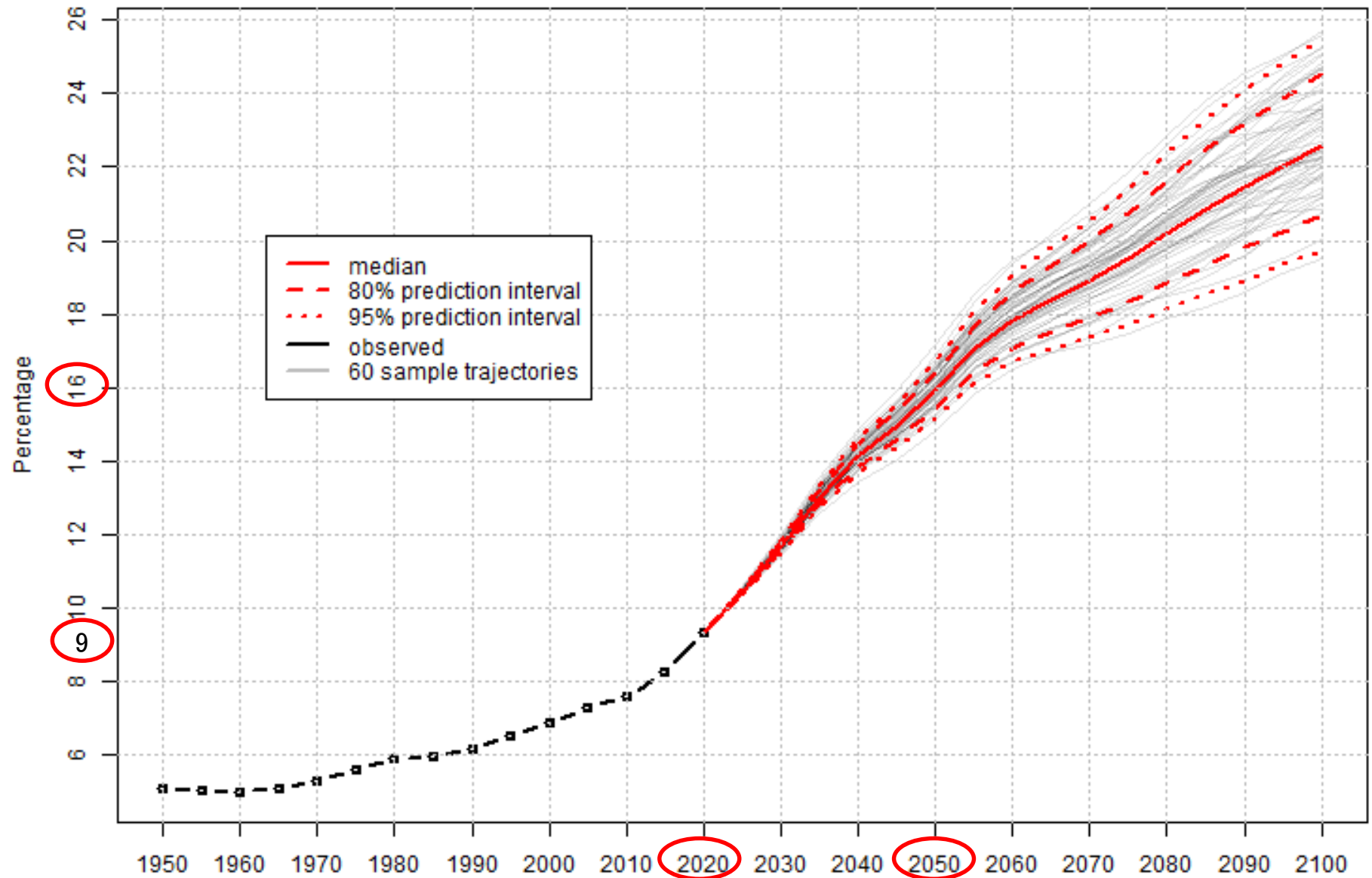
世界人口の推移（予測）



世界の平均寿命の推移（予測）



世界の高齢化率の推移（予測）



世界人口推計2019年版：要旨

-10の主要な調査結果（日本語訳）-

1. 世界人口は増大を続けるものの、地域によって増加率に大きな差
2. 今後2050年までに予測される人口増加の半分以上は9カ国で発生
3. 急激な人口増加で、持続可能な開発に課題
4. 生産年齢人口の増大が、経済成長のチャンスになる国も
5. 出生率は全世界的に減少しているものの、一部では高止まり
6. 平均寿命は延びているものの、最貧国は世界平均に7年及ばず
7. 世界人口は高齢化、65歳以上の年齢層が最速の拡大
8. 生産年齢人口の割合低下が社会保障制度に圧力
9. 人口の減少を経験する国が増加
10. 一部の国では、国際移動が人口変動の大きな要因に

(持続可能な開発目標)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



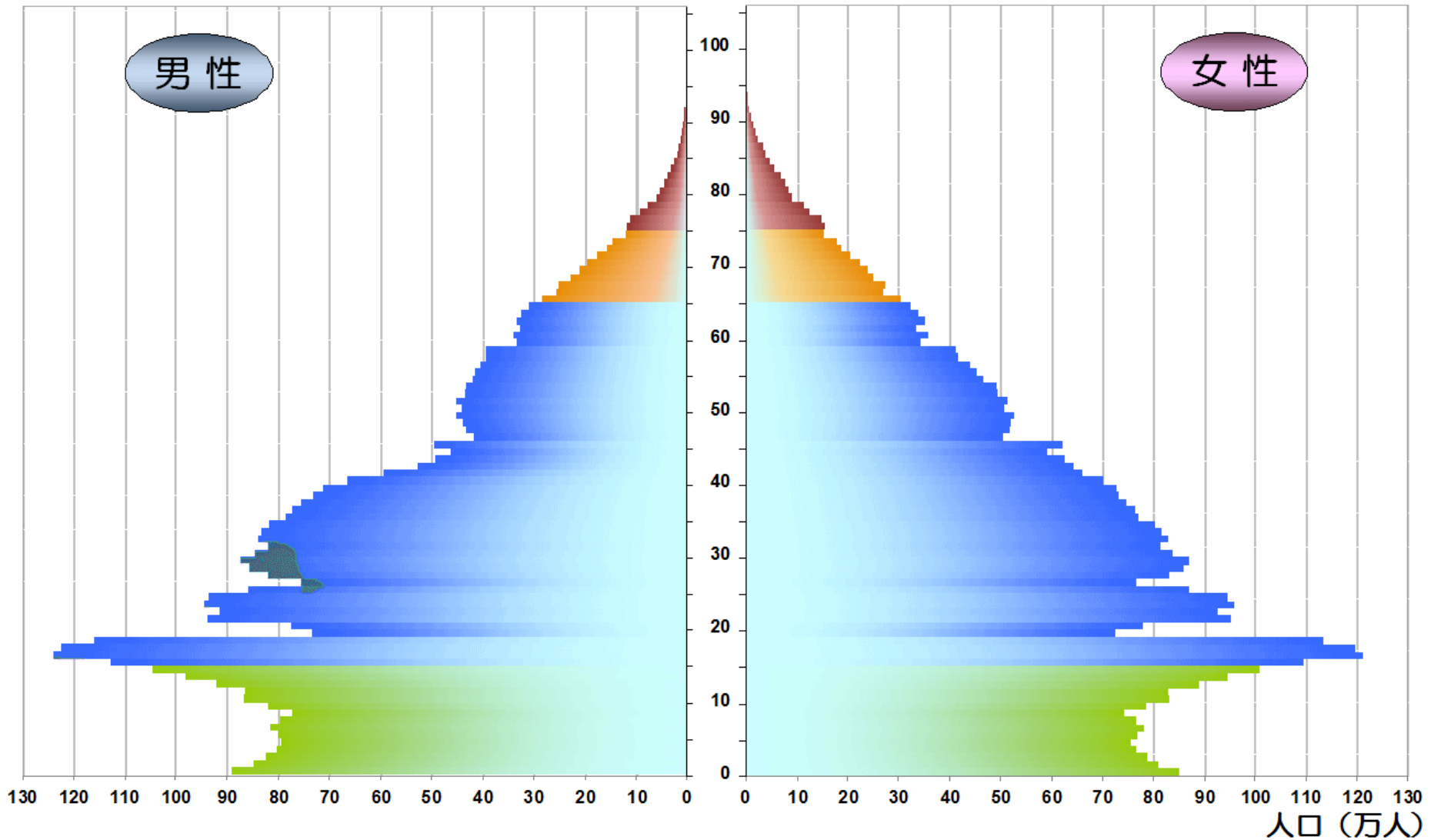
Women (女性) : 20か所

Child (子ども) : 13か所、Older persons (高齢者) : 3か所

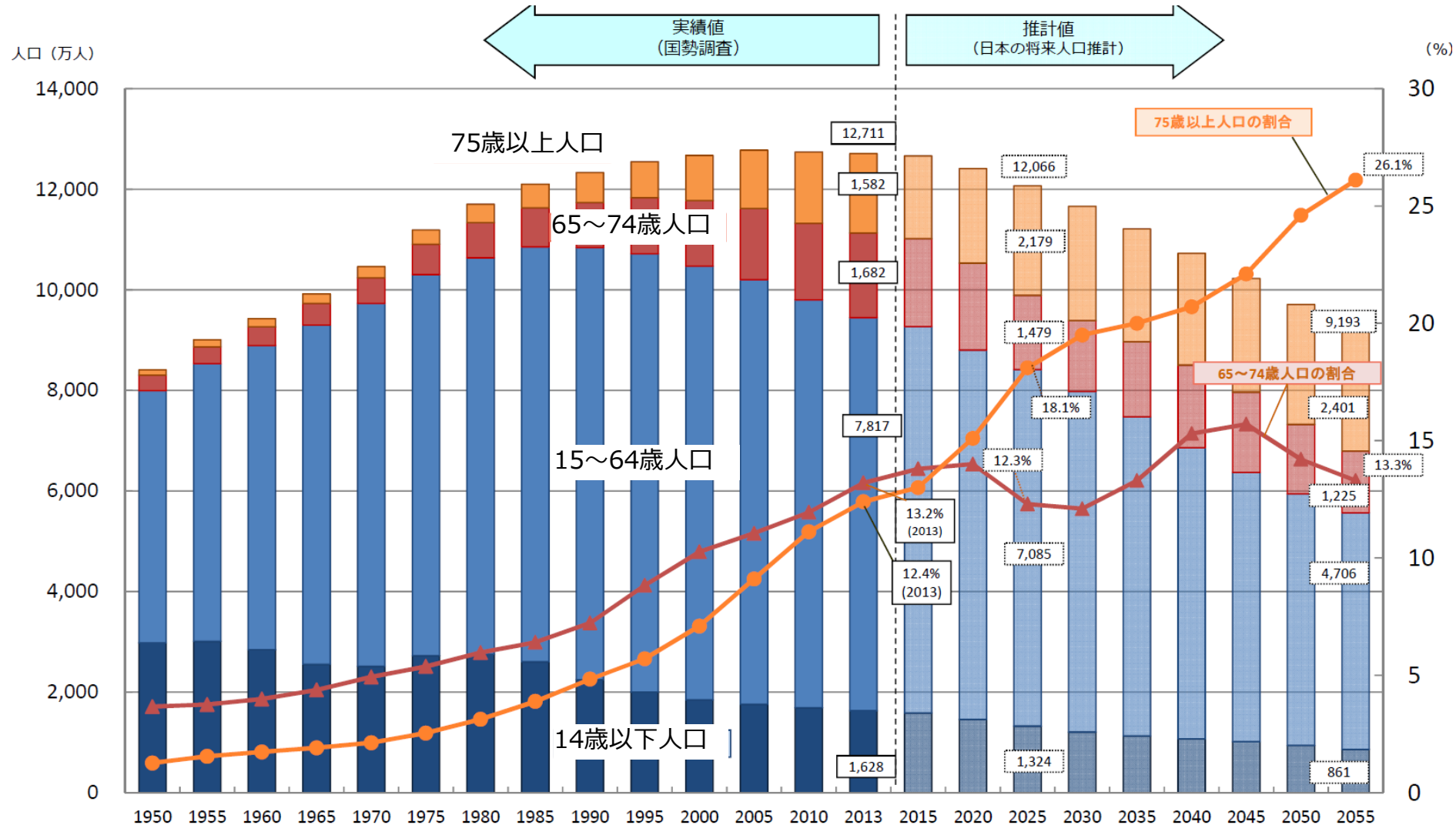
(国際連合広報センター https://www.unic.or.jp/files/sdg_poster_ja.pdf 2020年4月8日アクセス)

日本の人口ピラミッドの推移

1965



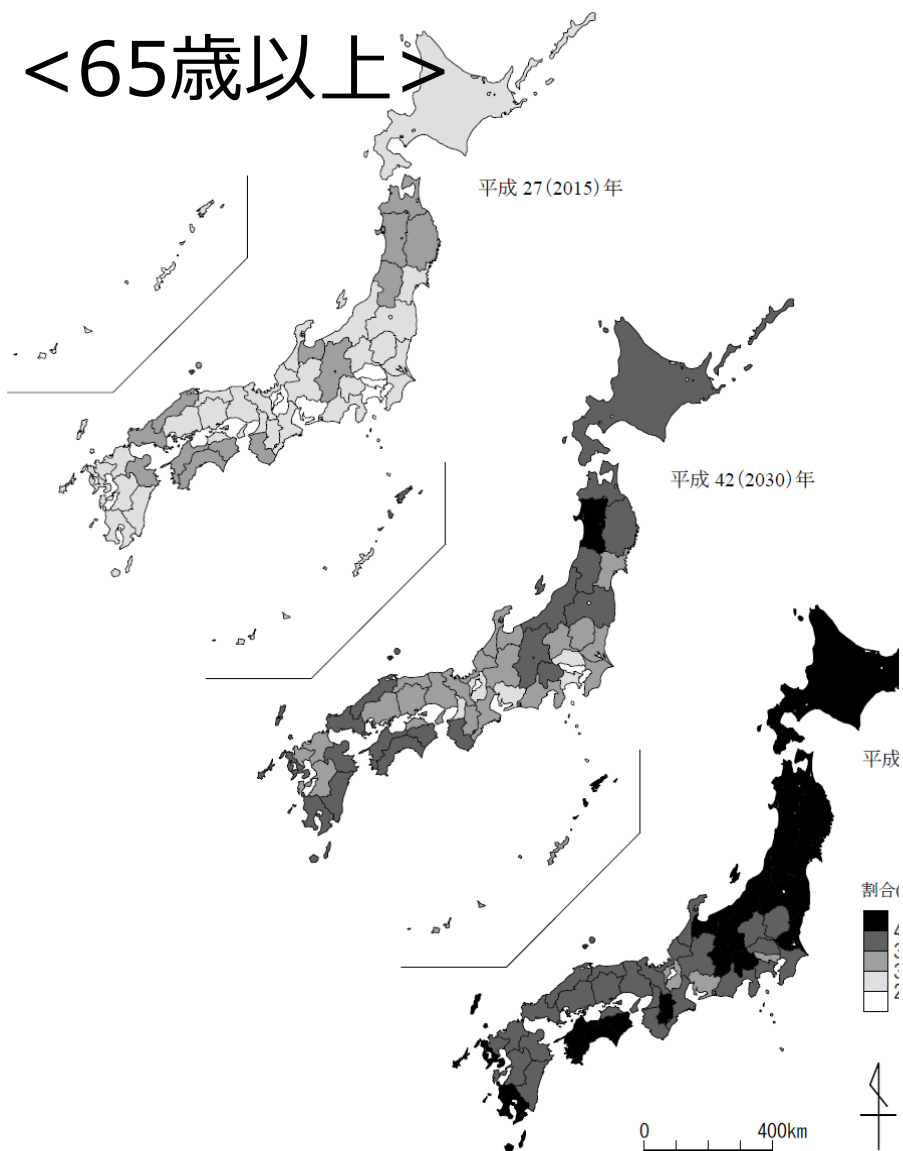
日本の人口の推移



資料：2010年までは総務省統計局「国勢調査」、2013年は総務省統計局「人口推計(平成26年6月1日確定値)」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計) 中位推計」

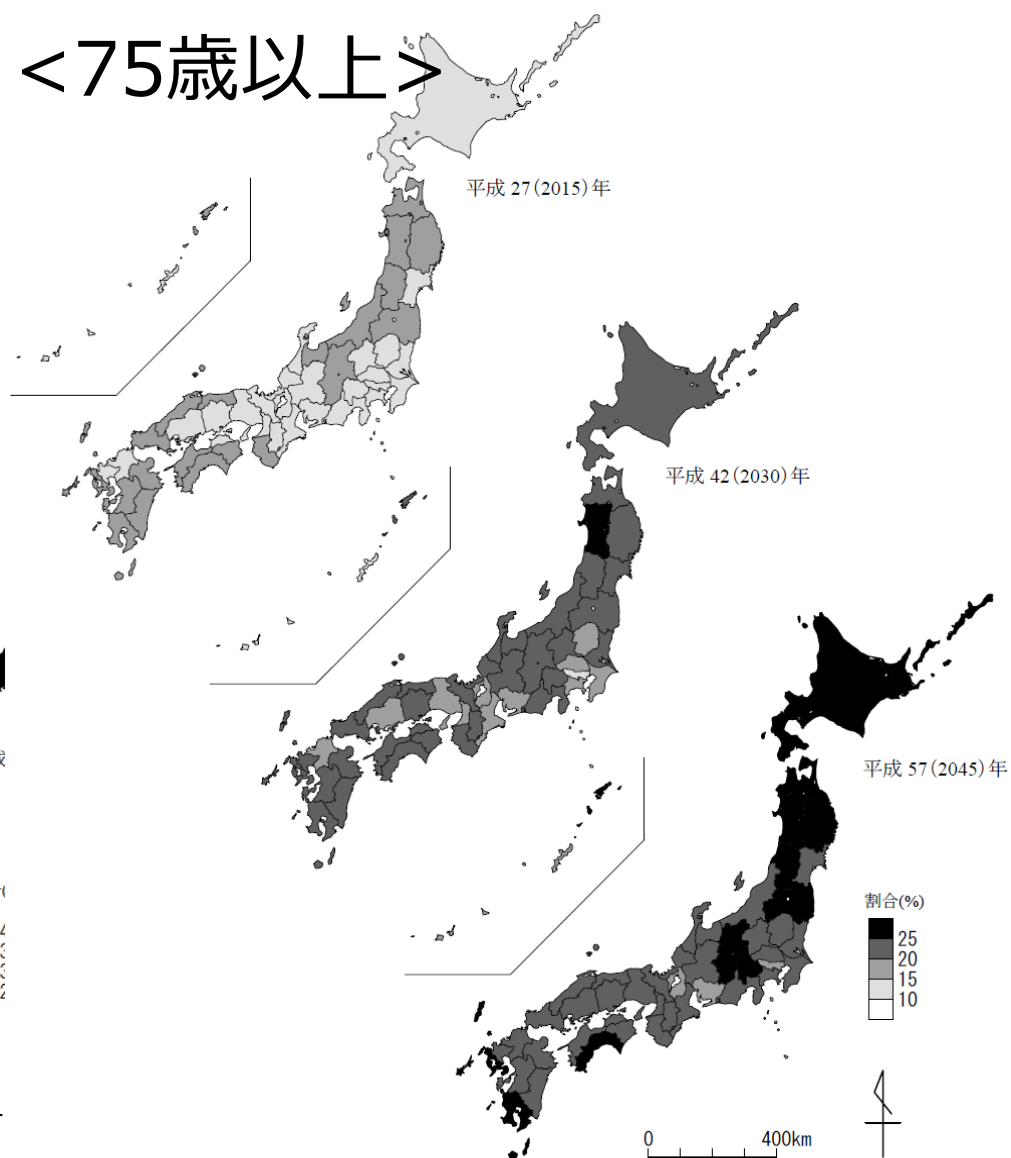
都道府県別65歳以上・75歳以上の推移

<65歳以上>



図Ⅱ-4 都道府県別 65 歳以上人口の割合

<75歳以上>



図Ⅱ-7 都道府県別 75 歳以上人口の割合

(日本の地域別将来推計人口 (平成30 (2018) 年推計 日本社会保障・人口問題研究所 2018年)

内閣府 平成30年版 高齢社会白書

第2節 分野別の施策の実施の状況

2. 健康・福祉

(1) 健康づくりの総合的推進

(2) 持続可能な介護保険制度の運営

(3) 介護サービスの充実（介護離職ゼロの実現）

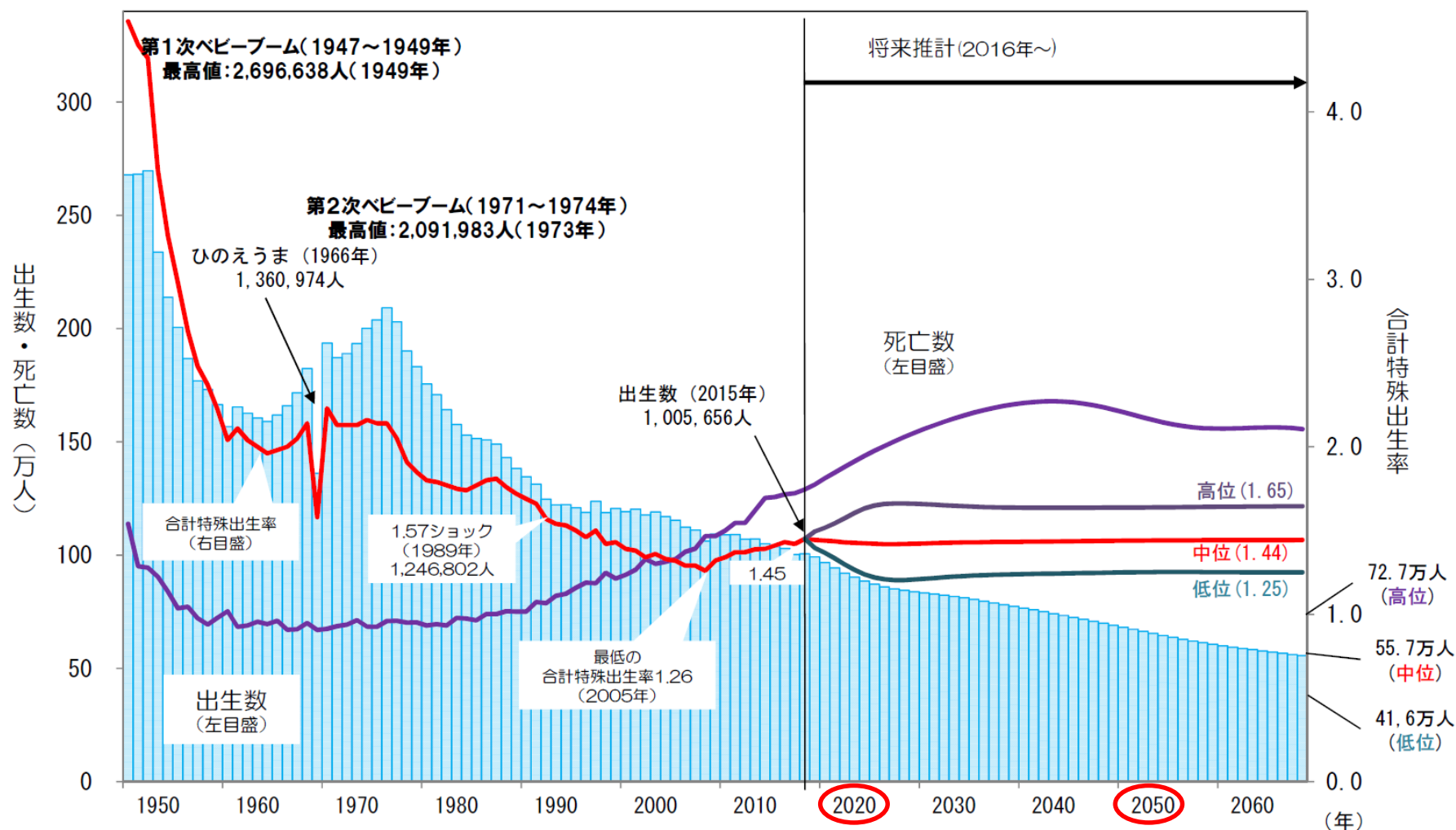
(4) 持続可能な高齢者医療制度の運営

(5) 認知症高齢者支援施策の推進

(6) 人生の最終段階における医療の在り方

(7) 住民等を中心とした地域の支え合いの仕組み作りの促進

出生数及び合計特殊出生率の年次推移



資料:2015年以前:厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

2016年以降:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」[出生中位・死亡中位推計]

(注)2015年までは確定数である。

内閣府 令和元年版 少子化社会対策白書

第2部 少子化対策の具体的実施状況

第1章 重点課題

第1節 子育て支援施策の一層の充実

- 1 子ども・子育て支援新制度の円滑な実施
- 2 待機児童の解消
- 3 「小1の壁」の打破

第2節 結婚・出産の希望が実現できる環境の整備

- 1 経済的基盤の安定
- 2 結婚に対する取組支援

第3節 3人以上子供が持てる環境の整備

- 1 多子世帯における様々な面での負担の軽減

第4節 男女の働き方改革の推進

- 1 男性の意識・行動改革
- 2 ワーク・ライフ・バランス、女性の活躍

第5節 地域の実情に即した取組の強化

- 1 地域の強みを活かした取組支援
- 2 「地方創生」と連携した取組の推進

内閣府 日本学術会議 分科会

・ 少子・子ども 関係

1. 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同
「子どもの成育環境分科会」
2. 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」
3. 臨床医学委員会
「放射防護・リスクマネジメント分科会」

・ 高齢関係

1. 臨床医学委員会
「循環器・内分泌・代謝分科会」
2. 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」
3. 健康・生活科学委員会
「高齢者の健康分科会」

少子高齢社会の課題

2 持続発展的な社会と多様性

2－1 少子高齢化・人口縮小

- (1) 「人口縮小」と「多様な生き方」のパラドックスを解消する
- (2) 多様な人生後半の生物学的基盤
- (3) 長寿社会への対応：高齢者の生存保障——年金・医療・介護
- (4) 若者にのしかかる負担の解消

内閣府 日本学術会議 提言・報告等

・ 少子・こども関係

<勧告> 0

<要望> 0

<声明> 0

<提言> 10

1. 2017 子どもの動きの健全な育成をめざして～基本的動作が危ない～
(健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会)

2. 2017 我が国の子どもの成育環境の改善にむけて－成育コミュニティの
課題と提言－ (心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・
生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子
どもの成育環境分科会 #)

3. 2013 我が国の子どもの成育環境の改善にむけて－成育時間の課題と提言
－ (#)

<報告> 3

1. 2017 子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題－現在の科学的知見を
福島で生かすために－ (臨床医学委員会放射線防護・リスクマネ
ジメント分科会)

2. 2011 我が国の子どもの成育環境の改善にむけて－「成育空間の課題と
提言(2008)」の検証と新たな提案 (#)

内閣府 日本学術会議 提言・報告等

・高齡関係

＜勧告＞ 3

1. 1987 日本高齡社会総合研究センター(仮称) の設立について (1)
2. 1987 日本高齡社会総合研究センター(仮称) の設立について (2)
3. 1974 定年制又は高齡による大学退職研究・教育者の老後保障特にその研究・生活諸条件の改善について

＜要望＞ 0

＜声明＞ 0

＜提言＞ 5

1. 2014 超高齡社会のフロンランナー日本：これからの日本の医学・医療のあり方（臨床医学委員会老化分科会）
2. 2014 超高齡社会における運動器の健康－健康寿命延伸に向けて－（臨床医学委員会運動器分科会）
3. 2011 地域で暮らす高齡者を支援する専門職の連携教育に向けて（健康・生活科学委員会・高齡者の健康分科会）

＜報告＞ 1

1. 2017 超高齡社会における生活習慣病の研究と医療体制（臨床医学委員会循環器・内分泌・代謝分科会）

今後の課題（私見）

1. 世界的には、①人口増加、②高齢化 が特徴である。
2. 日本の①少子化、②超高齢化、への対策は。
3. 日本学術会議の分科会・情報の発信について。
4. 日本学術会議の課題、日本学術会議への期待。